

<シェリル・メイナー大佐の2020年8月16日のビデオメッセージ（要約）>

私の母が天に召されて4年になりますが、母の誕生日である8月が来るたびに、母が毎日飲むほど好きだった「AW」という清涼飲料水を兄弟姉妹と一緒に飲むことで、母のことを追憶しています。愛する人を亡くした喪失感に苦しむことがありますね。ルカ 7:11-17には、イエス様が葬儀で行われた奇跡が描かれています。そこに、夫に先立たれたばかりでなく、息子をも失った女性が出てきます。彼女はどれほどつらい思いをしていたことでしょうか。その場面には二種類の群衆がいました。一つは、イエス様についてきた人たちです。この人たちは、イエス様が何か奇跡を見せてくださるに違いない、と期待に胸を膨らませ、笑いながら歩いていたことでしょうか。もう一つの群衆は、葬列に連なっていた人たちです。彼らは、夫と子どもに先立たれた女性の行く末を気遣い、嘆き悲しみながら歩いていたことでしょうか。全く異なる二つの群衆が、ついに路上で出会いました。そこには、沈黙があったことでしょうか。イエス様はその女性に、何がしてほしいか、とは聞かずに、「もう泣かなくてよい」と言われました。そして、手を伸ばして棺に触れられました。遺体をおさめた棺に触れると汚れを受けてしまうと、当時は考えられていましたから、その光景を見た群衆は息を呑んだことでしょうか。イエス様は死んだ子に、起き上がりなさい、と命じられました。すると、その子は起き上がり、しゃべり始めたので、二つの群衆は共に神を賛美しました。イエス様は、愛する者を亡くした人の痛みを理解し、慰めを与えてくださる方です。私たちの必要が何であるかをイエス様は理解し、命と希望を与えてくださいます。棺に手を触れてくださったイエス様は、私たちの汚れにも手を触れて、清めてくださり、イエス様は十字架と復活を通して、永遠の命を私たちに与えてくださいます。復活のイエス様は、あなたにも「もう泣かなくてよい」と声をかけてくださっているのです。ヨハネ 11:25-26で「わたしは復活であり、命である。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない」と言われています。私は、母と天国でいつか再会できることを信じて、期待しています。ぜひあなたにも、このイエス様を知っていただきたい、信じていただきたいと思います。